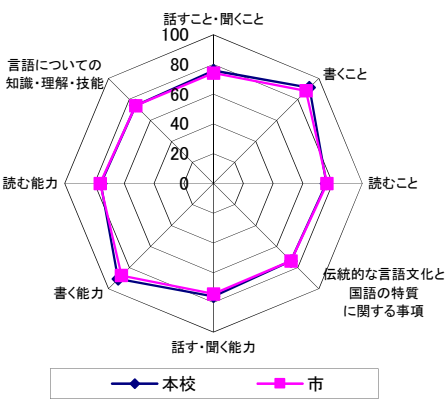


宇都宮市立旭中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	75.9	74.2	68.8
	書くこと	91.1	88.0	73.8
	読むこと	75.8	76.2	71.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.7	73.6	68.8
観点別	話す・聞く能力	75.9	74.2	68.8
	書く能力	90.7	87.5	73.8
	読む能力	75.8	76.2	71.7
	言語についての知識・理解・技能	74.1	74.0	68.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

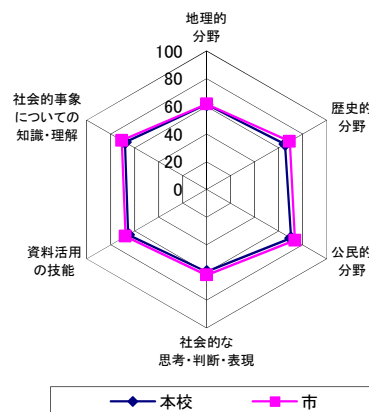
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○市の平均正答率と比べ、1.7ポイント高い結果が得られた。 ○聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取る問いの正答率が、市の平均と比べ7.4ポイント高い。 ●話の内容を正確に聞き取る問いの正答率が、市の平均と比べ3.2ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・質問を考えながら聞く技能を育む学習活動を行い、目的意識をもって聞く態度を育成する。
書くこと	○市の平均と比べ、3.1ポイント高い結果が得られた。 ○自分の考えを明確に書く問いの正答率が、市の平均と比べ6.6ポイント高い。無答率が低く、自身の考えを書いて表現しようとする意欲の高さを感じられる。 ●自分の立場を明確に書く問いの正答率が、市の平均と比べ0.6ポイント上回るに留まった。表現や構成を工夫して、自分の主張を書き表す技能に課題がある。	・書いて表現する機会を多く設け、言語活動の充実を図る。 ・主張を明確に伝えるための表現や構成を工夫して、文章を書く学習活動を行う。
読むこと	●市の平均と比べ、0.4ポイント下回った。 ○文章の展開に即して内容を捉える問いの正答率が、市の平均と比べ2.1ポイント高い。 ●登場人物の心情を捉えることができるという問いの正答率が、市の平均と比べ2.1ポイント低い。表現に込められた象徴的な意味を捉える力に課題がある。	・人物の描写や発言、情景描写に、心情が写し取られることを確認し、実際の文学作品の中で詠み深める学習活動を行う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○市の平均と比べ、0.1ポイント高い。 ○敬語について理解する問いの正答率が、市の平均と比べ11.2ポイント高い。 ●第3学年までに学習した漢字を読む問いの正答率が、市の平均と比べ2.5ポイント低い。小学校で学習した漢字を書く問いの正答率も、市の平均と比べ2.2ポイント低い。	・基礎的な漢字の技能を高めるために、日常的な漢字指導を充実させる。

宇都宮市立旭中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	61.4	61.7	54.6
	歴史的分野	65.3	69.2	59.6
	公民的分野	70.3	73.6	67.8
観点別	社会的な思考・判断・表現	59.4	61.9	51.9
	資料活用 の技能	65.4	67.7	57.7
	社会的な事象についての知識・理解	68.0	70.7	64.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

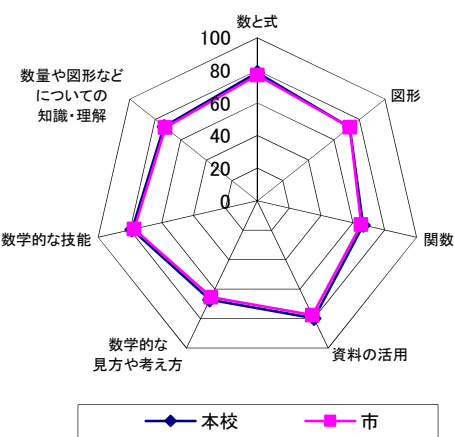
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	●市の平均正答率と比べ、0.3ポイント下回っている。日本各地の気候、雨温図に関する問題の正答率が特に低い。 ○ヨーロッパ州、アフリカ州に関する問題は、市の平均をそれぞれ1.8ポイント、1.4ポイント上回った。二つの山地に囲まれた瀬戸内海の気候の問題は、市の平均を4.6ポイント上回った。	・日本の諸地域に関しては、地域によって正答率の差が大きい。それぞれの地域の特色をとらえられるようにしていく必要がある。
歴史的分野	●市の平均正答率と比べ、3.9ポイント低い結果となった。特に奈良時代の税制、江戸時代の農業の発達に関する問題の正答率が低かった。 ○室町時代の東アジアとの交流に関する問題は、市の平均をやや上回った。	・思考・判断・表現の問題の正答率が低いので、論述の問題を繰り返し解かせることで、対応していく。 ・税制、政治のしくみなどは時代により異なるので、各時代の違いや類似点を比較させながら、理解させる。
公民的分野	●市の平均正答率と比べ、3.3ポイント低い結果となった。高齢社会に関する問題や、裁判のしくみに関する問題が、特に正答率が低かった。 ○採決の仕方に関する問題は、市の平均をやや上回った。	・裁判所のしくみについてなど、特に正答率が低かった問題については、復習の機会を多く設けるようにする。 ・資料の読み取りに関する問題も全体的に正答率が低いので、資料読み取りの問題も、数多く解かせることで対応していく。

宇都宮市立旭中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	78.7	77.1	71.0
	図形	72.4	72.4	59.3
	関数	66.5	65.2	51.0
	資料の活用	79.8	77.6	67.1
観点別	数学的な見方や考え方	67.3	65.5	48.8
	数学的な技能	78.8	77.5	69.8
	数量や図形などについての知識・理解	73.0	72.1	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

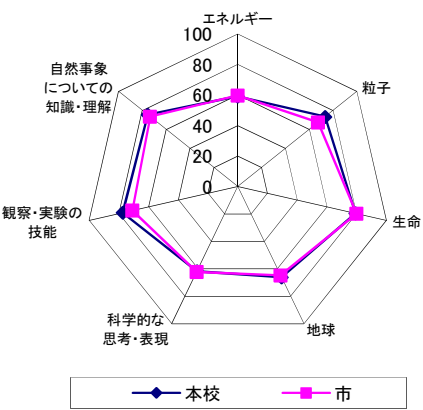
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数と式の領域は、市平均よりも1.6ポイント高い。特に2次方程式の立式の問題では市の平均よりも5.7ポイント高い。 ●根号を含む式の乗法について、市平均よりも1.0ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・学年や単元にかかわらず、基本的な計算技能は繰り返し問題を解かせ、定着させていきたい。 ・平方根の計算は、まず根号を使った表し方から定着させていきたい。
図形	○相似な図形の証明から辺の長さを求める問題では、市の平均よりも3.1ポイント高い。 ●角の二等分線の作図の問題では、市の平均よりも6.1ポイント低い。	・作図については、1年生の時に学習してからはなかなか取り組む機会がないので、2・3年の学習の中で作図を絡めた問題に取り組ませたい。 ・問題をよく読み、何を作図させたいのか(交点なのか直線なのか)を理解させる必要がある。
関数	○関数の領域は市の平均よりも1.3ポイント高い。また、1次関数の式を求める問題では市の平均よりも7.0ポイント高い。 ●反比例の表から式を求める問題では、市の平均よりも3.6ポイント低い。	・式の求め方については表やグラフを読み取ったり、文章に書いてあることを利用したりして求めていくことになる。様々な種類の問題に取り組ませ、定着させたい。
資料の活用	○資料の活用の領域は、市の平均よりも2.2ポイント高い。出題された問題はすべて市の平均を上回っていた。	・資料の活用では値に関する語句が多く出てくるので、その語句の意味とその値の求め方を身に付けさせたい。

宇都宮市立旭中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	59.1	59.7	57.9
	粒子	73.4	67.4	59.8
	生命	79.3	79.9	73.5
	地球	66.1	64.7	54.6
観点別	科学的な思考・表現	61.8	62.3	56.3
	観察・実験の技能	77.4	70.9	65.4
	自然事象についての知識・理解	75.6	73.5	66.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

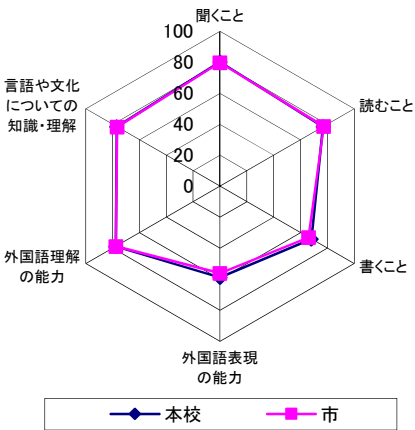
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○エネルギーの領域では、市の平均値とほぼ同じ水準である。観点別では知識の正答率が高い傾向にある。特に音の速さと伝わり方の正答率が92%を超え、市の平均と比較しても5ポイント程度高い。 ●観点別では思考の正答率が低い傾向にある。特に慣性の問題では市の平均から8ポイント程度低い。	・道具を使った仕事は実験を多く行うことで理解を深め、既存の概念を払しょくできるように授業を改善する。 ・等速直線運動では、グラフは把握していてもそれがどうしてそのようになるのかは理解されていないので、実験後のまとめの授業でわかりやすい伝え方を工夫する。
粒子	○粒子の領域では、市の平均と比べて6ポイント高い。観点別では知識と技能の正答率が高い傾向にある。思考は市の平均とほぼ同じ水準である。特に二酸化炭素の検出法や分解の問題については市の平均より10ポイント以上高い。他の問題においても市の平均を下回っている問題はない。	・現在の指導を継続するとともに、更に多くの生徒が理解できるよう演示や視覚教材等を取り入れながら授業に取り組むよう努める。
生命	○生命の領域では、市の平均値とほぼ同じ水準である。観点別では思考の正答率が高い傾向にある。特に、植物の分類においては3ポイント以上高い。 ●観点別では知識の正答率が低い傾向にある。特に細胞分裂の問題では市の平均から4ポイント程度低い。	・生殖の仕組みでは無性生殖、有性生殖のそれぞれのメリット、デメリットをグループ活動を通して話し合い、理解を深めていきたい。減数分裂やDNAなどの用語に関しても小テストなどを行い、意味と用語をリンクさせていきたい。
地球	○地球の領域では、市の平均と比べて1.4ポイント高い。観点別では技能が市の平均より高い。知識は市とほぼ同じ水準である。特に天気図の問題では市の平均より15ポイント以上高い。 ●観点別では思考の正答率が低い傾向にある。特に火成岩の問題では市の平均より13ポイント程度低い。	・鉱物や動物の分類、減数分裂については、観察のあと、丁寧に繰り返しまとめを行う。また、反復して学習する習慣をつけるよう指導にあたる。

宇都宮市立旭中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	80.3	79.9	75.7
	読むこと	76.8	77.3	72.8
	書くこと	68.1	66.0	69.3
観点別	外国語表現の能力	58.9	56.1	58.8
	外国語理解の能力	77.6	77.6	72.3
	言語や文化についての知識・理解	77.0	76.6	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○英語を聞くことについては、若干市の平均を上回ってはいるがほぼ同じ程度。 ●対話の内容を聞きとり、資料を基に英語で答える問題の正答率が24.1%と全問中最も低い、市の平均より1ポイント高い。(市全体を見ても最も正答率が低かった問題である。)	・対話の内容を聞き取って理解するのみならず、その内容から、質問に答えられるようなリスニングの力をつけるような活動を取り入れていきたい。 ・対話英文やまとまった英文を聞き取り、その要点を聞き取る力をつけるなど、その場で適切な対応ができるようにするための活動を数多く行うことで力をつけさせたい。
読むこと	○英語の長文を読む問題で、内容や概要を把握する力は、市よりも2.5ポイント程高い。 ●スピーチの内容を踏まえて、感想を英文で書くことについて、全国、市、よりも正答率は上回ってはいるが、53.2%とあまり高くなかった。	・長文読解において概要を把握する活動を中心に取り組ませていく機会を多く持たせ、今まで以上により詳細について理解を図る工夫を授業で行っていく。 ・長文を読み進めていく際に、指示代名詞が具体的に何を指しているか確認しながら読むことを、さらに意識させていきたい。
書くこと	○英語で質問する文を書いたり、対話の流れに合った英文をかくなど、場面に応じて、英作文を書く力が市よりは少し上回っているが、正答率が34.0%とかなり低い。 ●英単語を正しい語順に並べて書く問題では、文法事項によっての不得意な部分が見られる。	・まとまった内容で説明する英文を書かせることを重点的に継続して指導していきたい。 ・授業の中で、多くの基本となる英文に触れるように工夫し、口頭練習・練習問題等のドリルを行って定着させていきたい。

宇都宮市立旭中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭の学習時間の確保	定期的に学習プリントを与え、学習する習慣を身につけさせる。 (学力向上ノート国社数理英の5冊)	学習時間が増え、理解が深まった。
学習課題の提示と振り返りの実践	『学習課題』を注視させる表示板を黒板に貼っておく。振り返りの視点を教室前面に掲示しておく。	学習課題の提示により、生徒はねらいをもって活動に臨んでいる。生徒に振り返りをさせる頻度が増した。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

学習した基本的な内容が定着していない。学習する時間を増やし、基本的な内容をしっかり理解させるために、学校で与える学習プリントの他に、自分で学習する内容を考え、ノートにまとめるための自主学習ノートを全校生徒に1冊ずつ持たせ、学力向上ノートと並行して年間を通して取り組ませる。